



Weekly Market Report

FX, JPY Interest Rate, Topics

Jul 6, 2026

1. 為替相場概況

介入警戒高まる中、162円台へ再び戻す展開となるか？

USD/JPY（1週間の値動き）



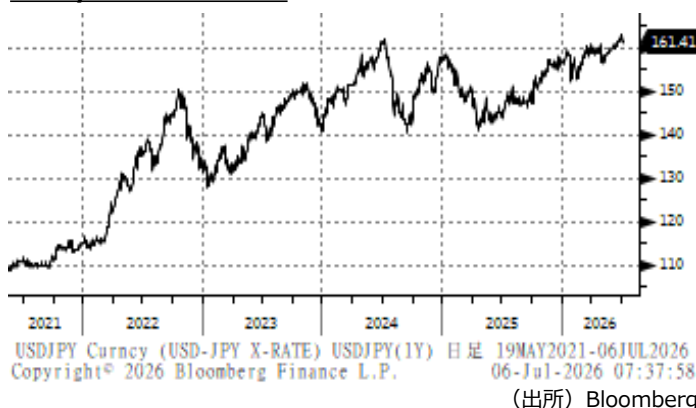
コメント

先週のドル円相場は下落。週前半は約40年ぶりに162円台に乗せ、米雇用統計への期待感から162円台後半まで上値拡大。週後半は不意打ち為替介入を警戒した円買いや米雇用統計の軟調な結果を背景にドル売り優勢となり、160円台半ばまで下落する場面もあったが、売り一巡後は買戻し優勢となり161円台前半まで反発し、同水準での越過。今週のドル円は上値の重い値動きを想定。骨太方針にて日銀の利上げを牽制する文言が明記される見込みであることや財政悪化懸念を背景にファンダメンタルズ的には円売り地合いが継続する一方、不意打ち介入への警戒感も高く、積極的な上値追いは慎重姿勢か。FRBの利上げ観測が後退する中、米指標の軟調な結果を受けドル売り優勢となる展開には警戒が必要。（市場商品部/CDG）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
7/6(月)	(米国) 6月ISM非製造業景気指数	54.0
7/7(火)	(米国) 5月貿易収支	-78.5b
7/8(水)	(米国) 6月FOMC議事録	—
7/9(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	220k
7/10(金)	(ドイツ) 6月CPI	2.3%

USD/JPY（5年間）



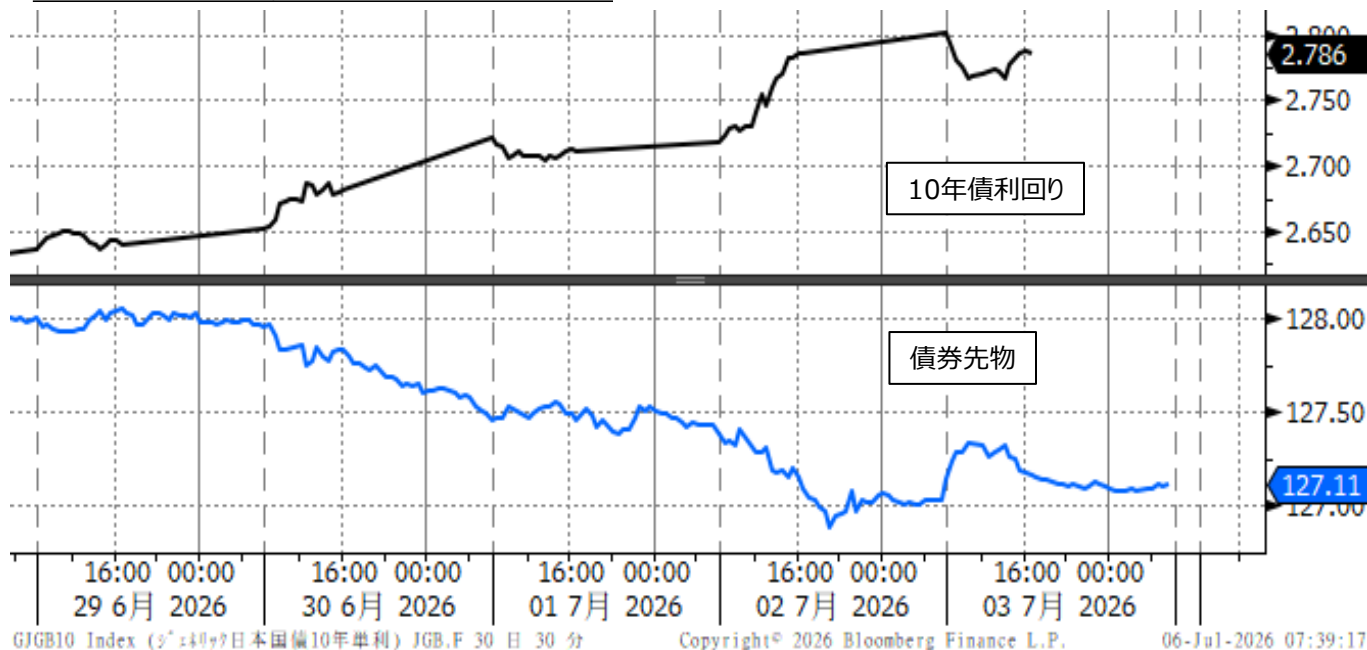
今週のレンジ予想（USD/JPY）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山口愛	159.00 – 163.00	今週はFOMC議事要旨に注目。ドル円は内容次第で上下に振れやすい展開になると予想。
黒川隼汰	160.00 – 162.50	今週は狭いレンジ相場を想定するも、8日発表のFOMC議事要旨の内容次第で方向感醸成されるか。

2. 円金利相場概況

ビハインドザカーブが意識され円金利上昇、今週の米重要経済指標には注目。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



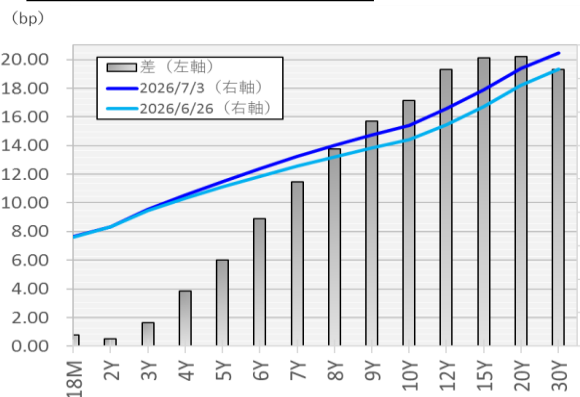
コメント

(出所) Bloomberg

先週の円長期金利は大幅上昇。週初は、中東情勢の懸念後退でインフレ警戒が和らいだ前週の金利低下トレンドを引き継ぎ、10年債利回りは2.63%程からスタート。その後、政府が策定した『骨太の方針』の内容が日銀の利上げを牽制すると見做され、ドル円は162円を上抜けて円安進行、円金利もビハインドザカーブ懸念から長期・超長期ゾーンが大幅上昇し、10年債利回りは週を通じて上昇トレンドに転換。木曜日の日銀短観では、業況判断指数（DI）が大企業・製造業で22、大企業・非製造業で37と大幅に上振れ、利上げ観測の織り込みやビハインド・ザ・カーブ懸念が意識され、10年債利回りは2.80%を超える上昇。2.80%超では買いが入ったものの、金曜日の10年債入札は最低落札価格が予想を下回り、テール拡大や応札倍率の低下から全般的に低調で再び金利上昇し、10年債利回りは2.79%付近で越週した。

今週は、国内は5年債・30年債の入札があり需給が重い展開となる。米国ではPMIやISM非製造業などが控えている。（市場営業部/渡邊）

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



(出所) Bloomberg

今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
鈴木誠哲	2.72% - 2.92%	今週は7日の30年債入札や9日の5年債入札に着目。ドル円の上下動も鑑み、円金利はボラティルな展開を予想。
小野口裕美子	2.75% - 2.90%	マーケットはビハインド・ザ・カーブを懸念しており、円金利は経済指標を見つつも上昇圧力がかかりやすいセンチメント継続。

3. 今週のトピックス

年初来の主要通貨対ドルパフォーマンス

年初来では豪ドルがアウトパフォーマンス。ただし、FRBの利上げ期待から当面はドル買い圧力の強い展開

＜年初来主要通貨対ドルパフォーマンス＞

2026年に入ってから7/3までの主要通貨対ドルパフォーマンスは、豪ドルが+4.0%、英ポンド-0.9%、ユーロ-2.6%、円-2.9%と、豪ドルのアウトパフォーマンスが目立つ展開となった【図表1】。

ただし、6月FOMCで力的な姿勢が示されたことから足元ではドル買い圧力が強まっており、ドルインデックスは一時2025年5月以来の水準まで上昇している。

豪ドルについては、オーストラリア準備銀行（RBA）が2月からいち早く利上げに踏み切り、ここまでに0.75%の利上げを行っていることに加え、資源価格の上昇で石炭や天然ガスの産出が多いオーストラリアでは貿易黒字の拡大が見込めることが豪ドルの押し上げ材料になったとみられる。

また、ユーロとポンドについてもエネルギー価格の上昇によるインフレ懸念からECBやイングランド銀行（BOE）の利上げ期待の高まりが通貨の下支えとなったが、現在はドル買い地合いが強まる中で軟調な推移が続いている。日本円は高市政権の利上げに慎重な姿勢を受けてビハインドザカーブへの懸念が高まっていることが円安進行の背景といえそうだ。

＜シカゴIMM投機筋ポジション＞

シカゴIMM投機筋ポジションについては、年初に18万枚まで積み上がっていたユーロ買いポジションが、ドル買いの流れの中でほぼニュートラルの水準まで縮小しているほか、円売りポジションの増加が目立つ状況となっている【図表2】。

円の売りポジションは15万枚程度と2024年以来の水準まで拡大しており、ドル円の低ボラティリティを受けて円キャリーポジションの積み増しが進んだためとみられる。ただし、レバレッジドファンド（ヘッジファンド）の円売りポジションは2024年7月にドル円が高値を付けた時の水準を超えてきており、これ以上の円売りポジションの拡大は難しくなってくるとみられる。

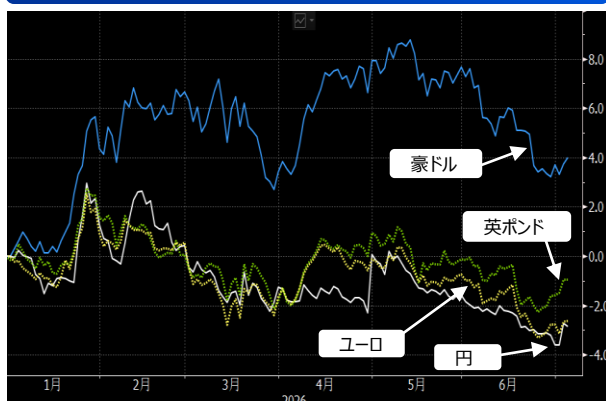
＜当面のドル円相場見通し＞

当面のドル円相場レンジは、155-165円を想定している。

ドル円相場は、イラン情勢の沈静化を受けて原油価格が下落する中でも上昇圧力が強く、6/30には節目の162円を上抜ける展開となった【図表3】。こちらは6月米国FOMCにおけるドットチャートで年内の利上げを見据えるメンバーが半数を占めるなど、FRBの利上げ期待が強まったことに加え、高市政権の骨太の方針に「日銀が適切な金融政策運営を行うことが非常に重要」という文言が盛り込まれたことが日銀の利上げへのけん制ととらえられ、ビハインドザカーブへの懸念が高まったことがドル円相場の上昇を後押ししたとみられる。

ドル円相場は当面高止まりが続くとみられるが、為替介入への警戒感が上値抑制要因となってくるほか、原油価格の下落による米国のインフレ沈静化でFRBの利上げ織り込みは徐々に剥落していく可能性が高く、年末にかけてのドル円相場は下落に向かうとみている。（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃）

【図表1】 年初来主要通貨対ドルパフォーマンス(%)



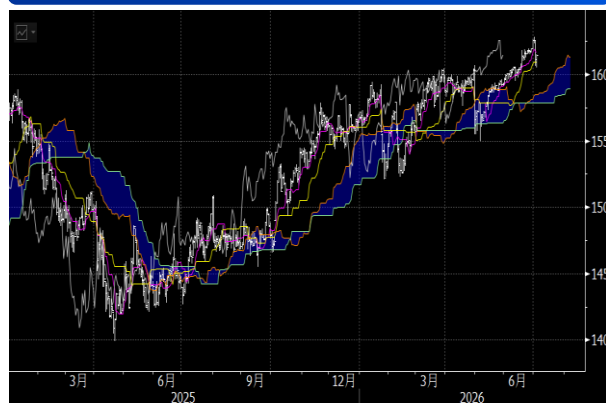
(出所:Bloomberg)

【図表2】 シカゴIMM投機筋ネットポジション(枚)



(出所:Bloomberg)

【図表3】 ドル円一目均衡表



(出所:Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会